

[国 語]

説明的文章における段落指導の工夫 － 修辞作用段落の効果を説明する活動を通して－

池村 和重*

1 主題設定の理由

平成15年度に、上越教育大学大学院教科・領域教育専攻言語系コース（国語）の実践場面分析演習Ⅰ・Ⅱ「国語」において、ゼミ単位で「説明文における具体と抽象の関係をとらえる段落指導」について研究した。小学6年生を対象とした説明的文章の授業で段落指導を行ったところ、児童がうまく理解できない段落が出てきた。そこで、当時、「一般意味論」、「一読総合法」、「言語技術教育」について調べ、「段落のとらえ方の指導には、キーワード・キーセンテンスを中心とした指導が有効ではないか」と考え、次の二つの代案¹⁾を作成した。

代案A	生徒が間違えやすい段落の要点をまとめてから次の段落の学習に進む方法
代案B	生徒が間違えやすい段落のまとめをせずに次の段落へ進み、その後、前の段落に戻ってくる方法

現場に戻ってから、中学1年生の教科書教材『ちょっと立ち止まって』にも、平成15年度の研究のときと同じように、生徒がうまく理解できない段落があることが分かった。そこで、二つの学級で代案Aと代案Bの流れに基づいて実践してみたが、代案Aでも代案Bでも、生徒は、段落の役割をうまく理解できなかった。なぜなら、大学院時代に行った小学6年生の教材は、児童がうまく理解できない段落の次の段落が最終段落であったため、代案Aや代案Bでも児童は段落の役割をうまく理解できるだろうが、うまく理解できない段落の次の段落が最終段落でない場合、生徒が間違いやすい段落以降のすべての段落を踏まえて考える必要があるためである。

平成22年度に上越教育大学附属中学校1年生で行われた『ちょっと立ち止まって』の有沢実践を参観する機会に恵まれた²⁾。5～7段落の必要性について問う授業であったが、その当時は、5～7段落の特徴に気付かず、ただ漠然と生徒がつまづく段落だという意識しかなかった。しかし、後になり、5～7段落には、修辞作用段落の補説というとらえ方があることを知った。

その後、5～7段落の特徴に気を付けながら『ちょっと立ち止まって』の有沢実践を追実践していると、三つのだまし絵を中心として構成されているため、筆頭のだまし絵を基に書かれている6～7段落については、ひとまとまりのものとして、構成を分けるときにほとんどの生徒は迷わず、6、7段落の役割についても納得していた。そこで、二度の補説について、その役割や効果を同時に考えるのは、中学1年生にとって、とても難しいものであることも考え合わせ、修辞作用段落を、実際に生徒が最も理解しづらい段落に絞り込み、文章全体におけるその段落の効果を仲間に説明することが生徒の段落指導に効果的ではないかと考えた。

2 研究の目的

本研究は、中学1年生の説明的文章において、修辞作用段落の効果を説明する活動が、段落指導に有効に働くことを明らかにすることを目的とする。

3 研究の構想

(1) 修辞作用段落とは

上野（1999）は、修辞作用段落を次のように規定している³⁾。本研究でも、この規程に準ずることとする。

「修辞作用段落」は、論説的文章の内容上のまとまりで区分してその論理構造を明確化することによって、論理構造とのずれが生じている段落として析出される。

* 妙高市立新井中学校

(2) 対象 中学1年生30名(男子15名, 女子15名)

対象生徒にとって, 本実践が中学校に入って初めての説明的文章の学習になる。

事前アンケート(表1)によると, 「段落」や「構成」といった, 説明的文章の段落指導で必要となる用語の捉えについて, 生徒によって差がある。「段落」を「形式段落」と捉える生徒と「意味段落」と捉える生徒に分かれており, 「構成」という用語を, 正しく理解できていない生徒が約半数いるという状況であった。本研究のためには, 説明的文章の授業に入る前に, 「段落」と「構成」について, 生徒の共通理解を図っておく必要があると考え, 本実践では, 「段落」は「形式段落」のこと, 「構成」は「序論, 本論, 結論」とすることと規定した。

表1 説明的文章の学習に入る前のアンケート結果(実施人数29名《1名欠席》)

項目	回答
④「段落」とはどのようなことですか。	○一マス下がったところで区切れるまとめり 19名 ○内容が区切れるまとめり 10名
⑤「構成」とはどのようなことですか。	○『はじめ・なか・おわり』など, 文章のつくりと答えられた生徒 15名

(3) 教材 『ダイコンは大きな根?』『ちょっと立ち止まって』(光村図書 国語一 平成26年度用)

『ダイコンは大きな根?』は, 中学校に入学して初めて学習する説明的文章の教材である。9段落で, 尾括型のオーソドックスな構成になっており, 段落のはじめの言葉や接続語, 指示語, キーワードなど, 説明的文章を読む上で基礎的な内容を指導しながら, 無理なく構成をとらえやすい教材である。

『ちょっと立ち止まって』は, 10段落で, 三つのだまし絵を中心に, 「序論, 本論1, 本論2, 本論3, 結論」という尾括型のオーソドックスな説明的文章である。ただ, 5段落が3・4段落までのまとめになっており, 6段落以降をつなぐ役割を果たしている。そのため, 5段落を6段落以降のまとめりに含めるという考えをもつ生徒が出てくる。5段落と6, 7段落は, 修辞作用段落である。この段落があるために構成を読み取ることが, 『ダイコンは大きな根?』に比べ, 難しくなっている。『ダイコンは大きな根?』の8段落も, 5段落から7段落を補足している同タイプの修辞作用段落であるが, 『ちょっと立ち止まって』の5段落に比べると段落の役割が分かりやすく, しかも, 前の複数の段落を補足している段落があることを, 生徒はここで学習することができる。いきなり『ちょっと立ち止まって』の5段落を学習するよりは, 生徒にとって5段落の役割が理解しやすくなる。そこに『ダイコンは大きな根?』を学習した上で『ちょっと立ち止まって』を学習する意味がある。

中学校の説明的文章の学習は, 第2学年以降, 20段落程度の文章になり, 段落の役割を指導するのは, 小学校高学年で学習する説明的文章とあまり変わらない長さの文章である中学1年時に指導する方がやりやすい。中学1年時に段落の役割をしっかりと指導しておくことで, 中学2年生になって文章が長くなっても, 粘り強く説明的文章を読もうとする力を養うことができる。

(4) 時間 平成26年5月～6月

(5) 方法

『ダイコンは大きな根?』の実践では, 段落番号を付けたり, 段落のはじめの言葉や接続語と指示語, キーワードに注意したりしながら文章を読み, その上で, 「序論, 本論, 結論」に分ける。8段落が本論に含まれるのか, 結論に含まれるのかについて, 考えが分かれることが予想される。ここでは, 8段落が5～7段落のまとめになっていることを教師が説明し, 前の段落のまとめになっている段落があることを理解させる。

『ちょっと立ち止まって』の実践では, 『ダイコンは大きな根?』の実践と同じように, 生徒が「序論, 本論, 結論」に分けるところまで行った後, 5段落の扱いに迷うことが予想される。生徒は, 『ダイコンは大きな根?』の学習で, 前までのいくつかの段落のまとめになっている段落の存在を知っているため, そのことを思い出して5段落が2～4段落のまとめになっていることに気付くことが予想される。そこで, 以下のような活動を構想する。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①5段落の役割について個で考え, 4人程度の小グループ内で説明し合って考えをまとめ, 小グループ内でまとめた考えを学級全体で発表する。</p> <p>②本論の構成を整理した上で, 5段落が文章全体に与える効果について個で考え, ワークシートに記入し, 4人程度の小グループ内で説明し合って考えをまとめ, 小グループ内でまとめた考えを学級全体で発表する。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(6) 検証方法

5段落の効果を中心発問にしたワークシート（図1）の記述内容と、5段落の効果についての事後アンケート（図2）の記述内容を基に、修辞作用段落の効果を説明する活動が生徒に与える影響について考察する。

一年生国語ワークシート ちよつと立ち止まって

○作品の構成について考えよう。

序論（話題提供）

① 自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえる指摘され、なるほどそうともいえると教えられた経験は多いことだろう。

本論1（中心に見るものを変える）

② 上の図は

③ この図の場合、

④ このようなことは、

⑤ 見るという働きには、

※②と④を受けてまとめている。

⑤段落があることで、どんな効果があるだろうか。

本論2（初めの意識を捨て去る（中心に見るものを変える））

⑥ 上の図の場合

⑦ だれでも、

本論3（見る距離を変える）

⑧ 左の図を見てみよう。

⑨ このことは、

結論（作者の主張）

⑩ 一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、そのもの他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

図1 5段落の効果を中心発問にしたワークシート

一年生国語ワークシート ちよつと立ち止まって

【4||はい 3||ややはい 2||ややいいえ 1||いいえ】

1 ⑤段落のことについて特別考えたことは、作品全体の構成を理解する上で役立ちましたか。 【4 3 2 1】

理由

2 ⑤段落のことについて特別に考えたことは、作品全体の構成を理解する上で役立ちましたか。 【4 3 2 1】

理由

3 ⑤段落のことについて特別に考えなくても、作品全体の構成を理解する上で変わりませんか。 【4 3 2 1】

理由

4 ⑤段落のことについて特別に考えなくても、作品全体の構成を理解する上で変わりませんか。 【4 3 2 1】

理由

図2 5段落の効果についての事後アンケート

4 研究の実際

(1) 指導計画 (全10時間)

次	時	ねらい	学習活動
1	1	○説明的文章の学習の必要性を理解する。 ○説明的文章の基本的な読み方を理解する。	○本単元のガイダンスを受け、見直しをもつ。 ○説明的文章と詩のアンケート結果を聞く。 ○将来必要になるものの例（電化製品の説明書、修士論文の概要）、今必要なものの例（ゲームの説明書、山中伸弥教授の中学生時代に書いた論文）を基に説明的文章の学習が役に立つことを理解する。 ○説明的文章の基本的な読み方をまとめたプリントを用い、段落指導用（リライト）教材（小学校中学年をと高学年レベル）を読む。
	2 3	○説明的文章の基本的な読み方を活用して読む。	○説明的文章の基本的な読み方のプリントを活用し、段落番号を付けたり、段落のはじめの言葉や接続語と指示語、キーワードに注意したりしながら、『ダイコンは大きな根?』を読む。
	4	○文章の構成を正しくとらえる。	○文章への書き込みを生かして、「序論、本論、結論」に分ける。 ○8段落が5～7段落の内容をまとめた段落であることを説明する。
	5 6	○説明的文章の基本的な読み方を活用して文章を作る。	○シャッフルされた段落のカード（『ちょっと立ち止まって』）を受け取り、説明的文章の基本的な読み方のプリントを活用して、受け取った一つ一つの段落を読む。 ○意見交流を通して、段落のカードを組み合わせ、文章を作る。 ○構成（序論、本論1・2・3、結論）を考える。
2	7	○段落相互の関係について正しく理解する。	○5段落の扱いについて、序論、結論を含めた前後の段落との関係を考えながら、自分なりの考えをもつ。 ○5段落の扱いについて、小グループで説明し合い、その結果を学級で発表し合う。 ○構成を理解する。
	8	○文章全体の構成について考えを深める。	○文章全体の構成を見ながら、5段落の効果について考える。 ○5段落の効果について、小グループで説明し合い、その結果を学級で発表し合う。 ○構成への理解を深める。
3	9	○二つの説明的文章の、作者の主張と自分の生活とを関連付けて考える。	○二つの説明的文章の、作者の主張をワークシートに書き出し、自分の生活の中で、それに関連したことをできるだけたくさん思い出す。
	10	○作者の主張と自分の生活との関連付けたことを広げたり深めたりする。	○前時で思い出した経験を、小グループで意見交流し、その結果を学級で発表し合う。 ○学級で発表し合ったものの中から生徒の興味・関心が高かったものを、経験した本人が詳しく説明する。 ○小グループや学級で出た経験の中で、自分の考えになかったものや参考になる意見を書き足す。

(2) 学びの実際

① 今までの段落をまとめる役割がある段落があることを理解する。(第4時)

第2時と第3時で、生徒は、段落番号を付けたり、段落のはじめの言葉や接続語と指示語、キーワードに線を引いたりしながら、『ダイコンは大きな根?』を読んだ。そのときの書き込みを生かして、生徒は、文章を「序論、本論、結論」に分けた。個人で分けた後、4人程度の小グループで意見交流を行い、小グループごとに考えをまとめた。すべての小グループが7段落と8段落との間が分かると判断した（正解は、7段落と8段落との間は分けない）。しかし、二つの小グループが8段落と9段落との間でも分かると判断したが、六つの小グループが8段落と9段落との間は分かれずと判断した（正解は、8段落と9段落との間は分ける）。つまり、すべての小グループが、8段落と前の段落

とのつながりを否定し、6グループ中4グループが8段落を9段落とともに結論の段落であり、分かれないと判断した。

事後アンケート(表2)によると、個人で分けたとき、4名の生徒が正しく分けること(7段落と8段落との間は分けない、8段落と9段落との間は分ける)ができていたが、8段落が5～7段落のまとめであり、9段落が全体のまとめであることを質問1の3と判断した理由で明記していた生徒は1名であった。そう答えた生徒も含め、小グループの意見交流では、多数意見に合わせてしまい、自分の考えを変えてしまった。

学級全体で、小グループの考えを発表した後、教師が、本当にこれでよいかを問いかけたところ、二人の生徒が「8段落は前までのまとめになっている」と言っているのが聞こえてきた。その中のAさんが、全体の前で発表し、その後、全員で文章を読み直したところ、ほとんどの生徒が「なるほど」と納得するような表情を見せた。事後アンケートでも、「1 納得できた」と書いた生徒は25人と、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしていた。

教師は、この時間の最後に、「8段落のように、結論の部分でなくても、前までのいくつかの段落をまとめる働きがある段落がある」ということを確認した。

表2 『ダイコンは大きな根?』事後アンケート(実施人数29名《1名欠席》)

質問1 小グループで意見交流をする前の自分の意見	
1 7段落と8段落との間で分けた。8段落と9段落との間で分けた。	11名
2 7段落と8段落との間で分けた。8段落と9段落の間で分けなかった。	12名
3 7段落と8段落との間で分けなかった。8段落と9段落との間で分けた(正解)。 理由 ○8段落は5～7段落のまとめで、9段落は全体のまとめだと思ったから。 ○8段落の最初に「これらの」という言葉があったので、それで前とつながっていると思ったから。(2名)	4名
4 7段落と8段落との間で分けなかった。8段落と9段落との間で分けなかった。	2名
質問2 「8段落は、5～7段落に出てきて三つの特徴のまとめになっている。」というAさんの説明は納得できましたか。	
1 納得できた。	25名
2 納得できなかった。	3名
未回答	1名

② 5段落の効果について説明し合い、文章全体の構成への理解を深める。(第8時)

生徒は、第7時では、第4時で行った学習を生かし、5段落が2～4段落のまとめとなっていることを理解していた。その上で、第8時では、文章全体の構成を見ながら、5段落の効果についてワークシート(図1)にまとめた。そして、小グループで説明をし合い、全体で発表した。小グループで説明し合う際、教師が、自分の記述以外にも納得のいく意見があればワークシートに書き加えるように指示すると、自分なりに取捨選択しながらワークシートに書き加える生徒の姿が見られた。生徒の記述は、以下の通りである(表3)。まったく何も書けなかった生徒は、表2の質問2で「2 納得できなかった」と答えた3名のうちの2名であり、ワークシートを忘れてたり、学力が低かったりする生徒であった。それ以外の生徒は、すべて一つ以上、自分なりに納得のいく考えを書いていた。また、本時の授業では、小グループの説明のし合いをしながら、自分の考えに自信をもつ生徒の姿が、説明のし合いの様子から見てとれた。

表3 5段落の効果についてのワークシートの記述内容(複数記述可)

○2～4段落をまとめることで、10段落の補足説明をしている(10段落が読みやすくなる)。	14名
○2～4段落が難しいから5段落で丁寧に説明して分かりやすくしている。	10名
○2～4段落をまとめつつ、6段落の内容に入りやすくしている。	9名
○5段落があることで、6段落との切れ目が分かりやすい(2～4段落と6～7段落との違いがよく分かる)。	7名
○未回答	2名

5 研究の成果と課題

(1) 成果

本研究の成果は、次の3点である。

- ①自分の言葉で構成についての考えをまとめることができるようになったことである。図1のワークシートの記述内容(表3)から、25名(30名中欠席等5名を除く)中23名の生徒が構成について考えをまとめていた。特に、文章全体の構成を見ながら、修辞作用段落の効果について考えたため、10段落や6段落との関連を意識した記述が多く見られた。
- ②修辞作用段落の効果の説明をすることが文章全体の段落相互の関係の理解を深めるのに役立ったと生徒が実感できたことである。段落の役割や効果について考えることは、生徒にとって難しく、理解力の低い生徒にとって、段落のことに特別に考えること自体がハードルの高い活動であったが、図2の事後アンケートの記述(表4)では、質問1の肯定的評価(質問1において4または3と答えた生徒)の人数が28名中26名と多かった。
- ③説明的文章の段落指導において、一つのやり方を提案できたことである。表4 質問1 肯定評価の理由で最も多かった回答が「5段落によって構成や内容が分かりやすくなったから」とあり、5段落の効果について学習することの意味を理解している生徒が多いことが分かる。また、5段落の効果について、仲間に説明している生徒の姿から、文章全体の構成を見渡して、具体的に説明している様子が見られた。自分の言葉で段落の効果の説明をすることが、主体的に説明的文章を読む態度を育てることにつながる。小学校高学年から中学1年生までの教科書に載っている説明的文章には、修辞作用段落が見られるものが多くあり、段落も10段落以内で書かれているものが多いので、小学校と中学校の国語科学習をつなぐ役割を果たす可能性も示すことができた。

表4 『ちょっと立ち止まって』事後アンケート(実施人数28名《欠席者2名》)

質問1 5段落のことに特別に考えたこと(事後アンケート実施時に、教師が口頭で、「役割と効果について考えたこと」と補足)は、作品全体の構成を理解する上で役立ちましたか。			
4(はい):16名	3(ややはい):10名	2(ややいいえ):2名	1(いいえ):0名
4または3と答えた理由	○5段落によって構成や内容が分かりやすくなったから。		22名
	○10段落とのつながりが分かったから。		2名
	○5段落がなくなると、10段落の内容が足りなくなると思うから。		1名
	○まだ少し分からないことがあるので4ではない。		1名

(2) 課題

本研究の課題は、次の2点である。

- ①修辞作用段落の効果の説明する活動は、中学2年生以降は難しいということである。中学2年生と3年生で学習する教科書の説明的文章は、どれも20段落前後となり、中学1年生までの文章量の約2倍である。内容的にも高度となり、本実践のように一つの修辞作用段落に焦点を当てて、その効果を説明していくことは難しい。
- ②学力が低い生徒に対する手当てをする必要があることである。段落の効果について説明する活動についてこれられない生徒が2名いたが、いずれも学力が低い生徒であった。このような生徒には、文章を読む機会を多めにしたリ、構成を図で示したりして、段落の効果について説明する活動に入る前の丁寧な指導が必要である。

引用文献, 参考文献

- 1) 上越教育大学有沢研究室国語科実践学研究グループ, 研究代表者 有沢俊太郎『実践場面分析演習I・II「国語」国語科実践学の研究III—説明文における具体と抽象の関係をとらえる段落指導—』, 2004年, p.30
- 2) 有沢俊太郎『教育 修辞 方法』, 東京書籍株式会社, 2012年, pp.61-70
- 3) 上野有紀『説明的文章における読みの指導の研究—「修辞作用段落」に着目した段落指導』(平成10年度上越教育大学修士論文), 1999年, p.30